



岩船魂

村上市立岩船小学校
学校だより No.5
令和6年9月1日
<http://www.iwafune.ne.jp/~iwax2-10>
E-mail:school@iwafune.e.murakami.ed.jp

めざす岩船っ子の姿（教育目標） 「深く考え 優しく思いやり たくましくやりぬく子」

『自分から進んでやる子に育てるには』

校長 佐藤 進

学校に元気な子どもたちの声が帰ってきました。2学期も地域に出かけて学習させていただきご支援いただくことも多くなると思いますが、よろしくお願いします。

さて、8月24日付朝日新聞のフロントランナーに、応用行動分析学者の奥田 健次さんが紹介されていました。その中で、望ましい行動を増やすためには、叱らずに「この子ができることを増やそうと思って接する」ことが大切だと書かれてありました。著書である「叱りゼロで『自分からやる子』に育てる本」（だいわ文庫）から参考になる内容が書かれてあったので紹介します。次のA家とB家、どちらがよいのでしょうか。

【A家】3年生になったとき食器片付けとお布団たたみの2つをやると約束して、言われなくてもできるようになりました。たまにし忘れることがあると、お母さんが叱ってやらせていたかもしれません。この2つは習慣になり、「一度もさぼったことはありません」と、お母さんは誇らしく思っています。

【B家】B家では「自分でやること」は決めていません。ある日、B家のお母さんが仕事でとても疲れて帰ってきて、「あー、今日は洗い物がたくさんあるなあ。」とつぶやいてしまいました。すると、子どもは食器を流しまで運んでくれて、「洗い物もやるよ?」と言ってくれました。そのとき、お母さんは思いもかけない我が子の親切がすごうれしくて、心から「ありがとう」と言いました。翌日も、お母さんが何も言わないのに、なんとその日も子どもが手伝ってくれました。また、お母さんは感激して、「助かるわ、ありがとう」と伝えました。そして3日目、この日は子どもは手伝ってくれませんでした。でもそこでB家のお母さんは、「え？ 今日はやってくれないの」とは言いませんでした。



一見、毎日お手伝いをしているA家の方が、お家の人にとってはよい子に見えるかもしれませんが。毎日お手伝いを続けることは、とても素晴らしいことです。しかし、おうちの人がやって当たり前と思って褒めなかったら、「言われたことだけやる」「叱られないようにする」子に育ってしまいます。一方、B家のように自分が「こうしたい」と思ってやってみた結果、周囲からの賞賛があると、満足感や充実感となって行動をさらにポジティブに強めていきます。わざと約束事にせず、いつも子どもがやってくれたことに感謝することで、おうちの人が困っていたら手伝ってあげたいと思うようになり、「やって」と指示されなくても自分から手伝えることを探し出し、助けになること自体に喜びをもつ子に育つのではないのでしょうか。

B家のような子に育てるには、「偶然よいことをする」まで辛抱強く待ち、タイミングを逃さずにすかさず褒めることが大事であると、奥田氏は応用行動分析学の立場から教えてくれます。学校でも「自分から進んでやる子」となるよう「叱りゼロ」を目指し、よい行いを見逃さずタイミングよく褒めることで、子どもたちのやる気を育てていきたいと思えます。

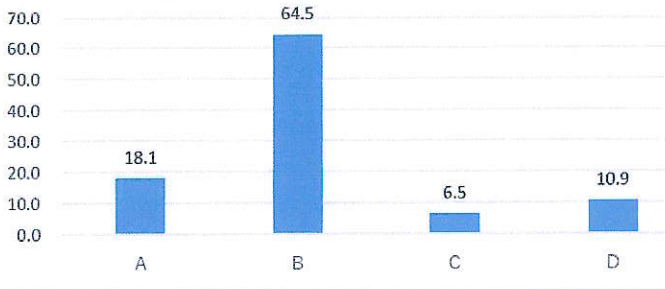
1 学期保護者アンケートの結果をお知らせします。

1 学期末に保護者の皆様にお問い合わせしたアンケートの結果を集約しました。ご覧ください。アンケートへのご協力、誠にありがとうございました。皆様の回答、ご意見を元に今後の教育活動の充実を図っていきます。

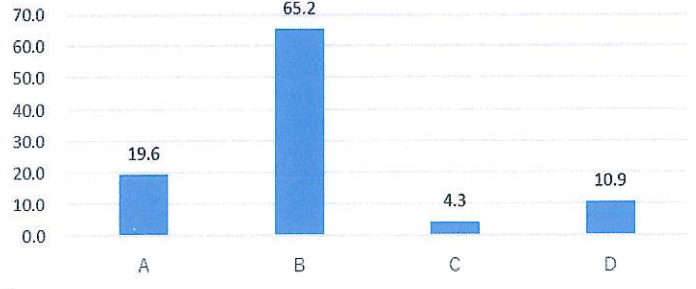
【アンケートの見方】

- ① アンケートの評価 A：とてもそう思う B：そう思う。
C：あまりそう思わない。 D：分からない。
- ② 数字の値は%です。

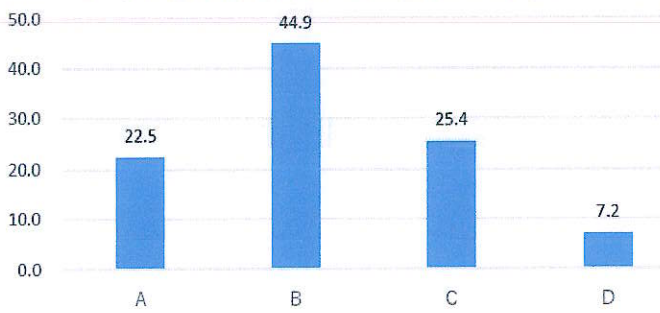
1 学校は、子どもが進んで学習し、よく分かるような授業を行っている。



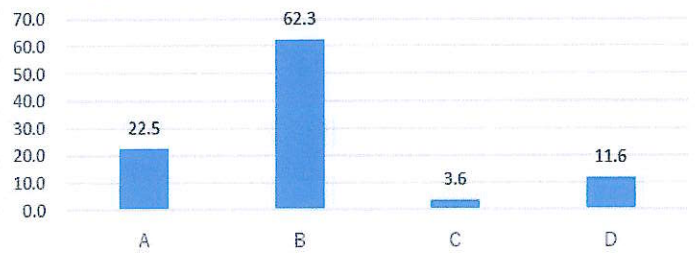
2 学校は、学習内容が定着するよう子どもを指導・支援し、学力を伸ばしている。



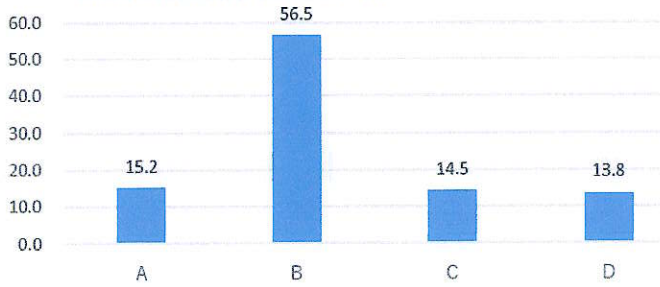
3 子どもは学年×10分の家庭学習をしている。



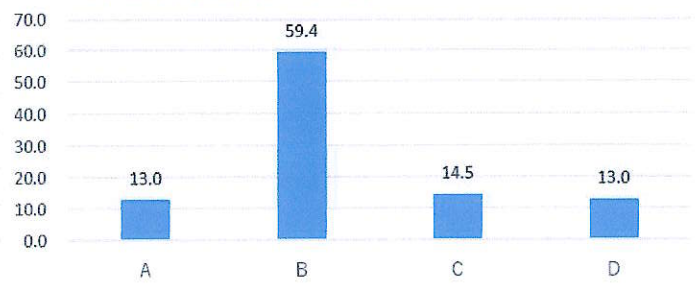
4 学校は、子どもが目標に向けて、努力したり、あきらめずに頑張ることができるような指導や支援をおこなっている。



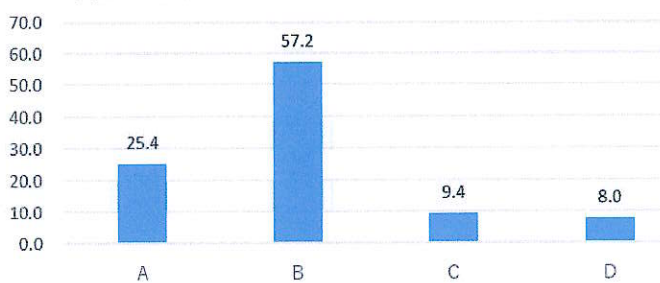
5 学校は、子どものトラブル等に早期に対応し、いじめの未然防止に取り組んでいる。



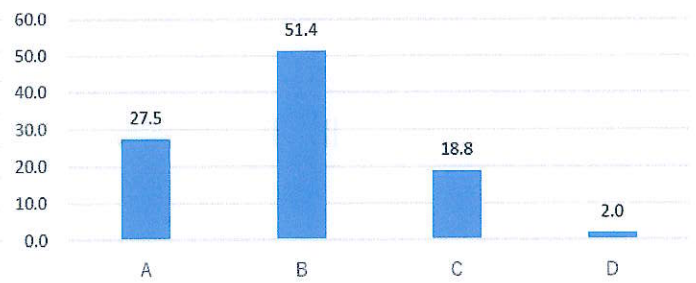
6 学校は、子どものあいさつや言葉遣いができるよう、指導や支援を行っている。



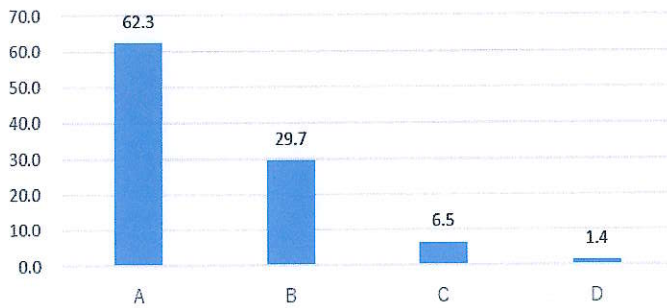
7 子どもは、運動や遊びを通して、体力や運動能力を高めている。



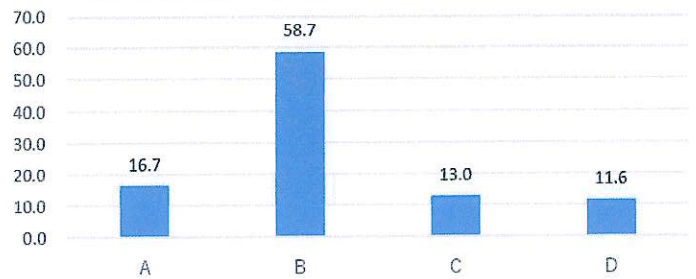
8 子どもや、朝、自分の決めた時刻に起き、元気に登校している。



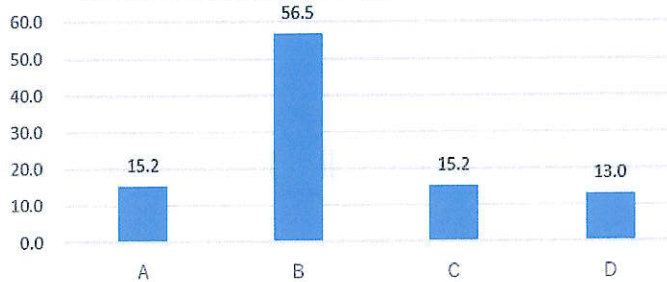
9 子どもは、朝ご飯を食べている。



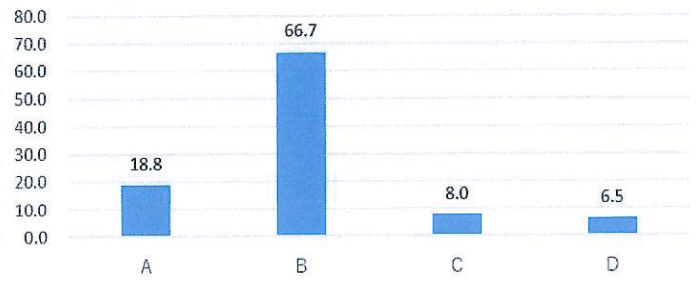
10 学校は、子どものことについて気軽に相談できる雰囲気や機会を作っている。



11 学校は、子どもの実態把握に努め、子ども一人一人を大切にしている。



12 学校は、教育活動が分かるように、たよりやメール配信等で情報発信を適切に行っている。



2学期も子どもたちがよく分かる授業を目指し研修を重ね、実践していきます。Q3では、学年×10分の家庭学習を25.4%の子どもたちが「あまりしていません。」という結果でした。子どもたちの学力向上には学校と家庭との連携・協力が不可欠です。家庭学習の定着に向けて協力をお願いします。2学期も学校の情報を適切に発信していきます。教育活動について不明の点がございましたらいつでもご連絡ください。

ご意見もいくつかいただきました。主なものについて紹介します。

- 友達間のトラブルがあった時は担任の先生に丁寧に話を聞き取ってもらっているようです。お陰で毎日元気に登校できています。
- 授業参観で、子どもたちがしっかりと対話の力をつけ、楽しく学んでいる様子が伝わり、とても嬉しかったです。

嬉しいご意見ありがとうございます。2学期も子どもたちに寄り添いながら指導を行っていきます。

- いじめ等への取組や学力向上への努力など、先生方の大変さは目に見えて分かりますが、その思いややっっていることが子どもたちに反映され良くなっているかどうかは考えるところがあります。
- 休まず学校に行っている子どもも悩んだり困ったりしています。まじめに来ている子どもを疎かにしない対応をお願いしたいです。
- 先生の言葉は思っている以上に子どもに刺さっている事があります。分かるだろうではなくしっかりと何の意図で今怒っているなど説明も付けてお話していただきたいです。

ご意見を真摯に受け止め、これまで以上に一人一人のどの子どもたちにもスポットライトが当たるような指導をしていきます。

- 支援学級への入り方や基準について教えてほしい。

特別支援教育について理解を図る文書を配付します。

- オクレンジャー、紙の手紙、市報等いろんな連絡手段があり困惑することがある。

保護者の皆様の要望もあり、昨年度に比べオクレンジャーを積極的に利用しました。あらためて次のようなルールで保護者の皆様にはお伝えします。

- ・紙とオクレンジャー ⇒ 提出必要な文書、児童にも指導が必要または知ってほしい内容の文書
- ・オクレンジャーのみ ⇒ 保護者だけに知らせる文書。

9月の主な予定

月	火	水	木	金
2	3	4	5	6
・あいさつ週間 (下浜町・横新町・中新町) ・高学年科学研究発表会 ・委員会		・5年自然教室① ・中学年校内科学研究発表会	・5年自然教室②	
9	10	11	12	13
	・道徳学習参観 ・6年「村上中等教育学校説明会」 ・カウンセラーによる教育相談	・全校ふれあいタイム	・放課後子ども教室「お茶会」	・中学年「起震車体験」
16	17	18	19	20
敬老の日 	・「交通安全みんなの願い」手紙配り ・カウンセラーによる教育相談 	・高学年「粟島汽船乗船体験」 ・「交通安全みんなの願い」手紙配り予備日		
23	24	25	26	27
秋分の日振替休日	・街頭指導 ・マラソン強調旬間(～10月2日) ・カウンセラーによる教育相談	・6年「郡市陸上記録会」参加※6年弁当持ち	・郡市陸上記録会予備日※6年弁当持ち ・放課後子ども教室	
30				
・街頭指導 ・クラブ				



10月の主な行事

- 1日(火) いじめアンケート実施
- 2日(水) 避難訓練(不審者対応)
- 3日(木) マラソン大会
- 4日(金) マラソン大会予備日
- 8日(火) 合唱指導(平井李枝先生来校)
- 9日(水) 就学時健診
- 18日(金) 3時間授業

- 16日(水) 体力テスト
 - 18日(金) 全校3時間 給食なし
 - 23日(水) 6年「中学校体験入学」
 - 27日(日) 展覧会 岩船地区文化祭
- ※登校日ではありません。